The snow comes drifting down. Each flake, exposed to the wind, falls down, fluttering right and left. On the boundary between light and shadow... They disappear from view at the window.  $A \ tale \ of \ inside \ and \ outside.$ 

A new quiet envelopes me, before long, inside and outside will be one.



雪が流れていく。 ひとつひとつの粒が風にさらされて、 右にも左にも振られて落ちてゆく。 光と影の境目で・・・ 窓の視界から儚くも消えてゆく。 内と外の物語。 シンとした静かな時間がわたしを包み込み、

やがて、内と外が一体となってゆく。

The air has colors. Next to chilly blue, white. Next to warm orange, red.

Next to endless black, gray. In the days tinted with multiple hues, the "colors" that suddenly appear, as if to compensate for the peace that went missing, speak to my heart.



冷たい青に近い、白。 あたたかいオレンジに近い、赤。 限りなく黒に近い、灰色。 彩られる日々の中で、

空気には色がある。

ふと立ち止まって見える「色」は、 どこか欠けていたピースを埋めてくれるように、 私の心に語りかけてくれる。

a smell I've inhaled in the past? The rows of leaves on the trees in the early summer light, soon will not be made anymore. Just like leaves that look identical but are different from one another, so the time that flows uniformly

Is it a time I have seen before,

feels different each time. If there is a heart, it will be made one with me someday.



それとも、 感じたことのある匂いなのか。 初夏の光の中に立つ木々の葉並びも、 もはやつくりだすこともできないくらいに。 同じように見えている葉も、 ひとつとして同じではないこと、 平等に流れる時間も、

今まで見たことのある時なのか、

感じかたは平等ではないことに。 心の在りようが、いつかの私と一体化させてくれる。

We do not need to become anybody.  ${\it The steam of the coffee and the autumn night wind}$ embrace the two, If you yield to the voice of your heart, words will not be necessary. Not even at such times, not even at such times...

The brain quivers.

It is wrapped in a dimly lit brightness.

We do not really need anything.

The sky to the town

the town to the house

the house to the people

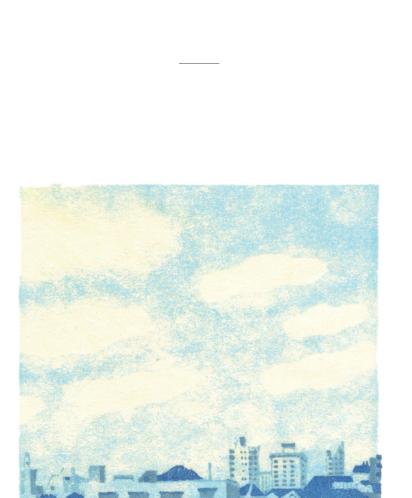
the people to the sky,

As if liked by the light, as if enclosed by the rain.

they are all connected.

Let the sky into your heart.

I am you, you are me.



ただ心の声にゆだねてしまえば、 言葉は必要としない。 こんなにも、こんなにも・・・

脳が揺らいでいく。

ほのかに灯された明かりに包まれていく。

本当は何もいらないのだろう。

何者にもならなくてもよいのだろう。

珈琲の湯気と秋の夜風がふたりを包み、

空が街へと 街が家へと 家が人へと 人が空へと つながっていく。

心に空を。

僕はあなたで、あなたは僕だ。

陽に好かれるように、

雨に包まれるように。

I wonder what "my true self" is. What makes me gentle and positive. "You know that" The answer is so very you.

 $Flowers\ casually\ blooming\ by\ the\ road side.$ I pause to admire ordinary nature.

 $The \ heart, free \ of \ the \ superfluous, \ shows \ its \ face.$ 



日常の自然にふと立ち止まってみる。 余計なことにとらわれない心が顔を出す。 「自分らしく」ってなんだろう。 そっと前向きな気持ちにさせてくれるもの。

「君は知っているの」

あなたらしさの答えを。

道端になにげなく咲く花。

I am back.



おかえり

ただいま

Welcome home.

街にくらす

いたわり、やさしさという気持ちがあり、それらは日々の生活の中で培っていくものです。 人を大切にすることは自分が生きる日々を大切にすることにもつながります。 将来、現在の価値観とは全く異なる価値観がそこにあると思います。

助け合うという人の心根には相手の痛みを感じること、

素敵な街には積み重なった時間・文化・精神が宿っています。

街の緑と共に自然を感じ、季節と共に日々を楽しみ毎日を心豊かに暮らし、

良き家族・友人・仲間らと共に大切に生きていきます。お互いの成長や門出を共に喜び、

助け合い支え合う精神的に豊かな関係性が育まれて未来へとつながっていきます。

社会やコミュニティの仕組み、経済的観念も別次元に変わり、本来、人が持つ能力を 社会全体で活かしていく事ができるそんな社会になっていくのかなと想像しています。 未来の担い手である子供たちにはその時代に必要な存在になってくれる事を望んでいます。 社会調和を考えると暮らし=生活の質(ライフクオリティ)を見直して改善していくことが 都市に生活していく上で大切なことではないでしょうか。 素敵な街になればなるほど幸せな人が増えていく、それがシンクタウンの願いです。

その成り立ちの造形美からは美しさや哲学的なこと、そして、自然観をここ日本では四季を通じ 多く感じ学ぶことができます。また、心の中にある大切な何かを見出して人は成長を重ねます。

どんな人でも自然の一部であり、普遍的な生活はどんな人にも共通している

とてもあたりまえで変わらないことです。人は居心地の良さを感覚的に見抜きます。

新しく作るもの・今ある住宅を活用して快適に暮らせる居住空間を実現するには

良き感性を持った考える人、そしてカタチに具現化していく職人の高い技量が求められます。

たいせつにしてきたこと

素材の質を見極め、調和のある手仕事でつくられた家は、 その正しい質の良さが使う事によって美しさを増し、人に親しみと愛着という心を生みます。 家とは人を守り、あたたかく包み込みながら時間を重ねていくもの。

私たちは、凛とした美しさと丈夫さ、そして品があること、

これからも研鑽を重ね誠実でありたいと思います。

皆様の質の良い暮らしが豊かな社会へとつながりますように。

それが良い家の条件だと考えます。

(調和・審美眼・暮らしのイメージ…)

自然は人々にたくさんの物を与えてくれます。

また住む人の思い出や気持ちがこもった大切な存在に家はなっていく。 そうして家は住み手により大切にされ、次世代へと住みつながれ、 世代を越え社会の大事な資産となります。 毎日の暮らしが豊かになるような提案力の高いプランニングと長期的な視野で考えた設計。 また、素材感が感じられる調和された空間は良い余白のある良質な建築となります。

scoop up your mind

Save your house

a n d

Think Town

子供の健やかな成長への願いと人生のパートナーのような存在でありたいという願いを込めて。

幸いにも今こうして多くの仲間と共に住宅建築の仕事をさせていただけていることに感謝を重ねる

毎日です。そしてシンクタウンの良い家を作りたいという考えや価値観を共有して、良き作り手と共に

建築を通して過去・現在・未来をつなげ、 関係する人すべての心を豊かにする。

4000 THINK TOWN